名大の時間 ・633

限られた時間の中で、最後の集大成を

全員の息がぴったりと合い、一つの音がきれいに響き渡る。大学で専門知識を深める一方で、もう一つの挑戦の場として熱中したのが吹奏楽サークルでの活動だ。指揮者台から感じるあの瞬間の一体感が、私のサークル活動の中で一番の記憶である。

特に印象深いのは、サークルのメンバーとともに挑んだ大学2年の時の吹奏楽コンクールである。同学年のメンバーとともにここ数年取ることができなかった「地区大会金賞」という目標に向かって、メンバーの予定などとすり合わせて限られた時間でできることを愚直に取り組んだ。

その結果、地区大会で金賞、そして全道大会で銀賞をいただくことができた。目標達成の嬉しさはもちろん、同じ目標に向かう仲間と妥協せずに音を磨き上げる大切さを学ぶことができた。そして、この経験を通じて、私は周囲と協力して目標を成し遂げる一つの方法を培った。

サークル活動を一区切り迎えた現在は、大学での学びの集大成として、卒業研究に力を注いでいる。私はキンセンカというキク科の一種に含まれる成分が、難病である潰瘍性大腸炎の炎症抑制に効果を示すのかについて研究を進めている。

海外の動物実験の論文などを紐解きながら、実用の可能性を模索する日々だ。吹奏楽サークルで「限られた練習時間の中で効率的にやるべきことに取り組んだ」経験は、限られた時間で行う卒業研究にも活かされていると感じる。

卒業を控えた今、私が残された時間で達成したい目標は二つある。一つ目は、これまで進めてきたキンセンカの研究を卒業論文としてしっかりと形にすることだ。二つ目は、2月末にある管理栄養士の国家試験に向けて全力で勉強に励み、必ず合格を掴み取ることである。学業の集大成としてどちらも妥協せず、最後までやり抜きたい。

社会人という新たな門出を前に、残された学生生活の一日一日をただ漠然と過ごすのはもったいない。これまでの出会いと学びに深く感謝しながら、一瞬一瞬を大切に残りの大学生活も全力で駆け抜けたい。



栄養学科4年
藤井風帆